

たくさんのメールありがとうございました。起こった日常をありのままに書いたつもりでしたが、多くの方々からたくさんの反響をいただき、驚きと同時に、想いがつながってゆくを感じて励まされております。

こちらは屋内退避が解除になり、街は次々といろいろなお店が再開して活気を取り戻しています。しかし、緊急時避難準備区域の指定はそのままなので、介護が必要な老人は避難しなければならず、遠くの施設に回され家族と切り離されて過ごしているというケースが増えています。また、小さい子どもを持つ家庭では父親だけが仕事のために単身で戻ってきている場合も多く家族がばらばらに暮らしている人たちも増えています。一方親と一緒に戻ってきた子どもたちは、新学期を迎えて30キロ圏外にある学校に間借りしてバスで集団登下校するという不自然な状態になっています。憲法で保障されているはずの教育がこの地域では、見えない放射能によって壊されているのです。住民は不安の中で未来への模索を続けています。

まるで心理戦争のようなこの状況に風穴を開けようという若者の提案で「つながろう南相馬！」というグループを立ち上げました。私たちは今度の被災で多くの方々からたくさんの援助をいただいています。原発事故の不安から、それらの皆さんの暖かい援助に感謝の気持ちを表すのを忘れていたのではないかと、という素朴な問いかけから「ありがとうからはじめよう！人間復興！ふるさと再生！」という言葉で感謝の気持ちを込めた旗を作って街中に立てようと計画しました。「こころはひとつ！ふるさと再生！子どもたちに未来を！」という旗も作りました。各200枚ずつ発注してあり間もなく届きます。資金など考えずに始めたので、これから賛同者を募るところです。また、オリジナルデザインの缶バッチもつくって、子どもたちや元気になりたい大人たちの胸につけたいと思っています。

うれしいことに旗のサンプルをパウチしたポスターを何枚か作ったところ、早くも貼ってくれる企業が出てきています。ボランティアさんへ「ふるさとを支えてくれてありがとう」という感謝のポスターを持って行って貼らせてもらった避難所では、それがきっかけで「ありがとう祭」というイベントが実施されたとも聞いています。

「まけるな！動けば変わる！ふるさと再生！子どもたちに未来を！」というポスターもあります。短い言葉の中にはたくさんの想いと声が詰まっています。地域のつながりを強めることで原発へ意識を向けてもらおう。同時進行だ。と彼らは言っています。若い人の柔軟な感性にはっとさせられ仲間になりました。

反原発を声高に叫ぶことはこの地域ではかなり抵抗があります。40年という歳月は東電との深いつながりを熟成させているのです。この地域には、人間のもつ明暗の不条理が静かな時の流れと共に存在しています。

だれも悪い人がいない
だれも悪いことをしていない

だけど
日本の国の中に
ある日突然
ぽっかりと空白地帯が出来る

やさしい日本国民は
その空白に気づかない

その空白のなかで
人知れずいのちを失っている人間がいることに
やさしい日本国民は
気づかない

むりせず
ありのままに
身の丈で
シンプルに暮らそう

そんな言葉の奥で
空白地帯は忘れられていく

そうならないように、私たちは発信を続けたいと思っています。
何もかもこれからです。

2011年5月6日

高橋美加子